

[認知症対応型共同生活介護用]

調査報告概要表

作成日 2008年6月24日

【評価実施概要】

事業所番号	(※評価機関で記入) 4670103664
法人名	有限会社 ダイリュウメディカル
事業所名	グループホーム 大竜
所在地	鹿児島市大竜町6番8号 (電話) 099-248-5541
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂本町27-5 前田ビル1F
訪問調査日	平成20年6月24日

【情報提供票より】(20年 5月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 6 月 1 日
ユニット数	2 ユニット
職員数	17 人
利用定員数計	18 人
常勤	9 人
非常勤	8 人
常勤換算	13.2 人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	実費	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円		

(4)利用者の概要(5月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	6 名	要介護2	5 名		
要介護3	4 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88 歳	最低	77 歳	最高	94 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	中央クリニック(病院)、桜島病院、迫田歯科医院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鹿児島市内の中心部でありながら閑静な住宅街に位置しており、周囲は静かで落ち着いた雰囲気である。ウッドデッキの広いベランダがあり、その周辺には利用者や職員と一緒に育てている草花や野菜、果物の木が植えられ、利用者のくつろぎの場となっている。管理者及び職員は、利用者ができること、できないことを確認するだけでなく、小さな言動から利用者の関心ごとや可能性を引き出すよう努めており、利用者が趣味や楽しみごとを見つけて生き生きと生活している様子がうかがわれる。ドライブや買い物に出かけたり、近隣でおこなわれる行事へ参加するなど、外出をする機会も多い。

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 理念については、これまでの理念をもとにしながら地域密着型サービスとしての理念について職員で再検討し、見直しが行われている。同業者との交流については、他のグループホームをすべての職員が見学する機会を設け、交流の場を確保している。また他のホームとの相互実習も具体的に検討中である。災害対策については、昼夜の時間帯を想定して定期的に避難訓練を行っている。訓練には職員だけでなく近隣の住民にも協力を呼びかけ、参加してもらっている。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価には全職員で時間をかけて取り組んでいる。自己評価を行う過程で自らのケアの振り返りを行うだけでなく、新たな課題や気づきの発見につながっている。外部評価の結果については、具体的な改善策を立てて計画的に取り組んでいる。
	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 家族や行政関係者、地域の方々などが参加し、定期的に開催している。ホームの近況報告をして実情を知ってもらった上で、参加者からホームに対する意見を出してもらっている。出された意見については職員で検討し、サービスの向上に活かす取り組みがなされている。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ほとんどの家族の方が少なくとも1か月に1回はホームを訪問しているため、その都度それぞれの利用者の暮らしぶりを話している。金銭管理の状況についても出納帳を見ながら説明し確認してもらっている。また、定期的に広報誌を作って発送し、行事の様子等についても知らせている。要望等についてはいつでも話してもらえるように家族と職員の関係づくりに努めている。要望等が出た時は職員で今後の対応や改善方法について話し合い、運営に反映させている。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会へ加入し町内会の係を引き受けたりしながら、地域の一員として生活している。地域で行われる六月灯、校区運動会に参加し、地元の人々と交流の機会がある。近くの幼稚園との世代間交流にも取り組んでいる。

調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスに位置づけられたことを契機に理念の見直しを行い、地域の中でその人らしく暮らし続けていくことを支えていくホームの役割を反映したものになっている。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	唱和して理念を毎日確認するだけでなく、会議等で理念を実践するために意見を出しあい、具体的な方策について頻繁に話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会へ加入し町内会の係を引き受けたりしながら、地域の一員として生活している。地域で行われる六月灯、校区運動会に参加し、地元の人々と交流の機会がある。近くの幼稚園との世代間交流にも取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価には全職員で時間をかけて取り組んでいる。自己評価を行う過程で自らのケアの振り返りを行うだけでなく、新たな課題や気づきの発見につながっている。外部評価の結果については、具体的な改善策を立てて計画的に取り組んでいる。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族や行政関係者、地域の方々などが参加し、定期的に開催している。ホームの近況報告をして実情を知ってもらった上で、参加者からホームに対する意見を出してもらっている。出された意見については職員で検討し、サービスの向上に活かす取り組みがなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	頻繁に行き来する機会はないが、必要に応じて連携がとれるような関係作りに努めている。個別のケースについて相談したり、アドバイスをもらいながらともに質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ほとんどの家族の方が少なくとも1か月に1回はホームを訪問しているので、その都度それぞれの利用者の暮らしぶりを話している。金銭管理の状況についても出納帳を見ながら説明し確認してもらっている。また、定期的に広報誌を作って発送し、行事の様子等についても知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望等についてはいつでも話してもらえるように家族と職員の関係づくりに努めている。要望等が出た時は職員で今後の対応や改善方法について話し合い、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、ホーム内の馴染みの関係の大切さを十分理解しており、職員の交代、異動がないように最大限の配慮をしている。職員が代わる場合、ダメージを防ぐ取り組みも行われている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外で行われている研修に、多くの職員が参加している。新人研修のプログラムを用意したり、職員の段階にあった内容の研修を受けられるように配慮するなど、働きながらトレーニングできるよう支援している。資格取得等についても全面的にバックアップしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の勉強会の時に他のホームの職員と交流の機会がある。また、3ヶ所のホームと連携をとり、すべての職員が他のホームを見学する取り組みも行われている。今後は他ホームとの相互実習等も計画している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に、必ず利用者と家族にホームに訪問してもらうようにし、雰囲気を知ってもらう機会を作っている。また、利用前にある程度職員と家族が話し合える関係を作ることができるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護する、介護されるという一方的な関係ではなく、助けあい、学びあいながら共に過ごしている。利用者から職員が教えてもらったり、利用者が主体となって物事に組み入る場面も多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から聞いたことや、職員が気づいたこと、家族から聞いたこと等を独自で用意したシートに詳細に記載し、それぞれの希望や意向を把握するよう努めている。困難と思われる場合でも会話の中からできるだけ思いを汲み取る努力を日々積み重ねている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月に1回ケアカンファレンスを行い、それぞれの職員の気づきや意見を出し合っている。本人や家族から日々のコミュニケーションの中で希望や意向を確認し、それらを反映させながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に計画の見直しを行っている。状態の変化時については迅速にモニタリング及びアセスメントを行い、計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望、状況等により、病院受診付き添いや外出・買物の支援などを適宜行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族が希望するかかりつけ医から適切に医療が受けられるよう支援している。必要に応じて、往診に来てもらえるような体制整備も行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りに関する指針を作成し、同意書も準備している。職員の勉強会の中でも、看取りについて取り上げ、職員間でも方針を共有できるよう話し合いが行われている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は言葉のかけ方、言葉づかいなどについて日々職員に注意し、誇りやプライバシーに配慮したケアに取り組んでおり、居室へ入る際の声かけやノックなども徹底して行われている。記録等の管理も適切に行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的な流れは決まっているものの、職員の都合で利用者のペースを乱すことがないように支援している。本人の希望を尊重し、散歩や外出などにも積極的に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査を行い、食事そのものをおいしく食べてもらえるよう取り組んでいる。献立作りや買い物、準備や後片付けなどは職員と利用者ができるだけ一緒に行うようにし、同じテーブルで食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日や時間は概ね決まっているが、本人の希望や状態にあわせて柔軟に支援している。利用者同士で入浴を楽しむ機会も稀にある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の興味や得意分野を職員が引き出し、それぞれ楽しみごとやホーム内の役割を持って生活している。利用者が作成した作品はホーム内に掲示したりバザーに出品したりして、利用者の活動意欲をさらに高めるような取り組みも行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年間で計画している行事のほか、ドライブに出かけたり、散歩や買い物にでかけるなど、日常的に外出の機会を確保している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼間の時間帯は一切鍵はかけていない。職員は一体となって自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に消防署、セキュリティー業者、近隣住民とともに避難訓練を行っている。夜間を想定した訓練も行っており、時間帯を問わず利用者の安全を確保できるよう取り組んでいる。災害時に必要となる備蓄も適切に行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事及び水分の摂取状況を概ね把握し、記録している。献立は栄養士に定期的にチェックしてもらい、アドバイスをもらっている。月に1回は体重測定も行っており、体重の増減の状況によって補食等の対応も個別に行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	適度に自然の光が入る開放的な作りで、明るく清潔である。対面式になっているキッチンからは食事を作る音や匂いがし、生活感がある。利用者の作品や季節にあわせた装飾も家庭らしい雰囲気を壊すことなくさりげなくされており、季節感を大切に空間づくりがなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれ使い慣れた家具や趣味の道具、家族の写真などを持ち込み、好みにあわせた居室づくりが行われている。備え付けの家具もあるが、それぞれの身体状況や希望にあわせた配置になっており、部屋の使いやすさや過ごしやすさにも工夫がみられる。		